



とーや湖

さざなみ通信

ジャガイモの花と羊蹄山
(洞爺湖町大原付近)

ごあいさつ

今年は過去に前例がないほど九州や四国地方の梅雨入りが遅く、大雨による災害が危惧されます。14 府県で 275 名が犠牲になった『西日本豪雨災害』から 7 月 6 日で丸一年となりましたが、豪雨災害は毎年のように発生してもおかしくない気象変動と考えられます。さらに、地震も日本のいたるところで間隔を狭めるように発生しており、我々は災害列島に住んでいることを改めて認識させられます。災害や地震による犠牲者が一人も出ないことを願うと同時に、当院では独自の BCP に加えて地元洞爺湖町と緊急時の対応について協議を開始しました。事前に決められることや準備するものなどを確認し、災害時の医療機能確保に努めたいと思います。

さて、職場の働き方改革が話題となっておりますが、解決策として人員不足の職種の業務の一部を委託するタスク・シフティングや、AI(人工知能)や IoT(モノのインターネット)の活用が挙げられております。既に医療の現場以外においては、機械化された工場では定型的な作業労働の一部は工業用ロボットに置き換わっています。機械化は生産効率の向上から日本の将来の就業人口の不足をカバーし、外国人労働者の受け入れ拡大とともに日本の成長に欠かせない柱の一つともされております。その一方で、機械化は労働者の就業機会を奪うことにも繋がり、失業や非正規雇用の増大、ひいては収入格差の拡大にも繋がること否定できません。個々には作業機械には置き換えられない創造性の発揮が求められ、企業には人材活用および人材教育の見直しが求められていくものと思います。

では、医療の現場においてロボット導入によるマンパワーの効率化や AI 導入がもたらす医療への貢献とは何でしょうか。身体能力が低下した方の日常動作の補助や介護者の負担軽減を目的としたロボットが既

に開発され、現在はそれぞれを普及する手段が模索されております。リハビリテーションの現場においては、ロボットスーツ HAL と呼ばれる訓練補助用ロボットが実用化されました。診断の分野においても一部の画像診断では異常所見の発見は専門医のレベルに到達したと言われ、世界中の論文の知識を蓄えた AI による画像診断能力は名医を凌駕するとさえ言われております。手術の現場においてもダビンチと呼ばれるロボット支援手術が昨春より適応が拡大され、体に負担が少ない手術として全国の病院で導入が進んでおります。

最近、ロボットと医療をテーマとする話題に触れる機会がありました。将来的には看護師の代わりにロボットが一部の医療行為を行う時代が来るかもしれません。しかしながら、人のぬくもりや心の温かさはロボットでは得られません。さらに AI のビッグデータに基づく確率論から導き出される医療と、本人の意志や要望に基づいた自分らしい医療は必ずしも一致しません。受療者にとって最善の医療の選択や意思決定には、受療者に想いを寄せた医療者チームによるサポートが絶対に必要です。

今回は令和になって最初の広報誌の『ごあいさつ』がありますが、これからの 10 年後や 20 年後には当たり前のこととして医療用ロボットの導入や AI の恩恵を受ける時代になるでしょう。当院は新たな変革を受け入れながら、これからも心通わせる医療者として医療の質向上に努め、地域医療の一部を担えるように努力して参ります。地域の皆様におかれましては、今後も変わらぬご支援・ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

2019年7月10日

院長 中谷 玲二



院長 中谷 玲二

第12回 日本静脈経腸栄養学会 北海道支部例会に参加して

臨床検査課主任 橋本臨床検査技師

6月1日に札幌市で開催された「第12回 日本静脈経腸栄養学会 北海道支部例会」に参加しました。

シンポジウムでは「NST*活動の現状と課題」をテーマに、6職種8名から発表がありました。私は慢性期病院における臨床検査技師の立場から、当院のNST活動の内容や工夫点、技師が検査だけではなく情報管理やシステム化で栄養管理に携わっていることについて発表させて頂きました。その後のディスカッションでは職種間・施設間で連携をしていくための課題について発表させて頂きました。その後のディスカッションでは職種間・施設間で連携をしていくための課題について



て、活発に意見が交わされました。

て、活発に意見が交わされました。

今回の発表ではがんや手術の際の栄養に関するものが多く、どのタイミングでも栄養管理を行うことは重要であり、栄養状態を良くすることで治療効果を高めたり、患者さんの生活の質を高めることに繋がると再認識できました。また、栄養状態を正確に評価するために新しい検査項目についての発表もあり、今後活用していけるのではないかと考えています。

当院には栄養サポートを必要とする患者さんが多くいらっしゃいます。今後も臨床検査技師としての専門性を活かしながら患者さんの支援をしていきたいと思えます。

*NST=栄養サポートチーム(様々な職種が専門知識をいかし、患者さんそれぞれに最良の方法で栄養支援を行うチーム)

第15回 緩和ケア ワークショップ実施

君の最期は。人生の最終段階をどう生きるか

～ ゲームで考える自分の最期 ～

医療相談室主任 中山MSW

6月29日(土)当院ホスピス緩和病棟ラウンジにて、第15回緩和ケアワークショップが開催されました。

今回のテーマは「ACP:アドバンスケアプランニング」、厚生労働省では「人生会議」という愛称で普及・啓発を進めています。「人生会議」とは、もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のことです。

もしもの時、自分はどのような医療を望むのか、何をしてほしいのか、されたくないのか、どんなことを大切にしたいのか…あらかじめ家族や信頼できる人達に伝えておくことはとても大切なことです。しかし、果たして自分自身がそのことを理解し言葉にして相手に伝えることができるでしょうか?

今回はワークショップで「もしばなゲーム」というカードゲームを通して自分自身が最後に大切にしたいことを参加者のみなさんと共有して行きました。「もしばなゲーム」では「痛みがない」「お金の問題を整理

しておく」などの内容がかかれた36枚のカードがあり、自分自身が大切にしたいものを残し、不要と思うものは場のカードと交換し、自身のベストファイブを決めるというものです。ちなみに私は「人との温かいつながりがある」「清潔さが維持される」「いい人生だったと思える」「不安がない」「大切な人とお別れをする」でした。ワークショップは大変盛り上がり、笑いの絶えない時間となりました。参加者の方からも「自分の価値観や死生観に自分自身が気づかされ、とても刺激的だった」「誰にでも気軽に使えると思うので、ゲーム感覚でその人を知るツールとして活用したい」などの感想をいただき、また「この思いは“今”の思いであり、患者さんの思いの変化もあって当たり前ということが分かった」とのご意見もいただきました。

ACPは話し合った結果が重要なのではなく、話し合うその過程が重要となります。なかなか話題にしづらい内容ではありますが、最期を考えることで今をどう生きるか、ということにもつながっていきます。まずは家族や身近にいる大切な人と自分が大切にしたいと思っていることについて話してみましよう。

「もしばなゲーム」に興味のある方は、ホスピス緩和ケア病棟ラウンジにありますので、ぜひお手に取ってみてください。



「もしばなゲーム」

～ 生活リハビリしませんか ～

～ 人気ブロガーさんにコミュニケーションを学ぶ ～

(連載第 48 回)



担当:リハビリテーション課
植田課長

皆さんこんにちは!北海道にもいよいよ夏がやってきましたね。

先日私は、札幌西円山病院の職員向け接遇研修会「コミュニケーションの取り方～相手の立場や気持ちを理解して良好な関係を築こう～ 絵日記ブロガーバニラファッジさんの場合」に参加してきました。

バニラファッジさんて誰?病院の研修会でブロガー?と思った方もいらっしゃるかもしれませんね。ファッジさんはバニラ家の皆さん(ご主人と双子を含む 3 人のお子さん、要介護 4 のお義母さんとその妹で要介護 5 のおばさん)との生活を「7 人家族の真ん中で。」というブログで漫画を交えてユーモラスに綴られており、特に、お義母さん、おばさんとの在宅介護の日々をテーマにした記事は大人気、著書も 3 冊出版されている、総アクセス数 4 億という超人気ブロガーさんです。

研修会では認知症のお義母さんと重度関節リウマチのおばさんの介護をする中で、介護者として気をつけてきたこと、病院職員やサービス事業者との関わりの中で感じたことなどを中心にお話がありました。

認知症の人はいつも不安を抱え何かと戦っているように感じる。何を注意されているかわからない、あれこれ聞かれてもどう答えていいかわからない、嫁や孫の前で恥はかきたくないのでは?自分もやがて辿る道、決して

叱らない、関わる時は肯定と尊敬と感謝の気持ちで、と介護をされてきたそうです。ブログの中のやり取りはとても楽しく面白いのですが、からかうような笑いや下に見たり叱ったりは一切なく、でも言いなりにはならない絶妙な距離感!時にシリアスな、実はすごく大変だったのでは?と思うエピソードも多いですが、そんな場面でも、ああこんな接し方、声のかけ方っていいなと、絵柄も素直な心のつぶやきもクスツと笑え、温かな気持ちになると同時にしみじみ考えさせられるのです。専門家に求めることも誠実に本人と向き合うこと、と話されていて認知症である前に一人の人間、人対人の関係作りに介護の専門家かどうかよりもっと大切なことがあるということを改めて教えていただいたような気がします。

日頃認知症の方との接し方や介護に悩んでいる方、興味がある方は、ぜひファッジさんのブログや書籍をご覧くださいね。何かヒントになること、そうでなくても読めば気持ちが晴れること請け合いです!

バニラファッジ著書

「スーパー嫁の汗と笑いの在宅介護」「91 歳毒舌系女子、喧嘩を売って生きてます」「86 歳乙女系女子、恋の力で生きてます」(主婦と生活社)

※新企画 日頃思っても伝えられないことを紙面を利用して伝える企画

看護師ママから院内保育所へ感謝の手紙



今回は当院にある院内保育所について看護師ママとして普段感じている感謝の気持ちを伝えていきたいと思います。

出産前にも院内保育所があることは知っていたのですが、実際に子供を預けるまでは未知の場所でもありました。子供を通わせてまず感動したのは、保育士の方々がお子たちの個性を捉えて一人一人丁寧に関わってくれることです。一歳の息子は外遊びが大好きで散歩が終わってもなかなか帰ろうとしません。帰宅後も家に入りたくないとお泣きする息子を無理やり抱えて家に入れることも多々あるのですが、保育所では本人が納得できるように話をして自分から帰るまで待っていてくれるそうです。また、誕生会、夏祭りの参加、バスに乗ってプチ遠足など子供が楽しめる色々な行事が

あり、帰宅後の子供たちの様子からも毎日楽しく過ごしている様子が伝わりうれしく感じています。

最近のように暖かい季節となると子供たちは保育士の方に連れられて病院の中庭によく散歩に来ます。私の勤務する病棟の窓からもうれしそうに庭を走り回る姿を見ることができ、患者さん達もそれを眺めて目を細めて喜ばれています。また、私たちが何度話しかけても反応がない患者さんでも、そんな子供たちの小さな手や笑顔を見て表情が和らぐ方もいらっしゃいます。

病院の中で院内保育所は、なかなかスポットが当たらない部署であると思いますが、病院で働く父母にとって安心して子供を預けることができ、子供たちはもちろん患者さん達にも元気をくれる場所でもあることを知ってもらいたいと思います。

保育所の皆さんいつも本当にありがとうございます。

とやあちこち

洞爺湖周辺の
注目スポット紹介コーナー!!



入り口はこんな感じですよ

洞爺湖も湖水で遊ぶ子供たちが多くなってきて夏らしくなってきました。

今回、洞爺の注目のお店として紹介させていただくのは、テントが立ち並ぶ洞爺中央公園キャンプ場のすぐ目の前にある、豆乳焼きドーナツのお店『チャシバクドーナツ』さんです。

テラスから美味しそうなドーナツが並んでいる店内には、イトインスペースもあり、とてもお洒落で落ち着く雰囲気ひろがっています。2013年の6月にお店を構えて今年で丸5年、昨年6月に『チャシバク INN』という宿もオープンしてお忙しいところ、

店主である田中陽介さんと瑠奈さんの素敵なお夫妻に色々とお話を伺いました。

ドーナツ屋さんを始めたいきっかけを聞くと、「自分がアトピーなので、自分のようなアレルギーを持っている人も持っていない人も誰でも食べられる物を作りたいです」「ドーナツなら子供のおこづかいでも買えるかなと思って」と瑠奈さんは素敵な笑顔で教えてくださいました。ドーナツは瑠奈さんが好きな材料にこだわり、旬の果物やチョコも植物由来性のもので、ドーナツには健康リスクがあるといわれるトランス脂肪酸は入っていないとのこと。味はもちろん美味しい!のですが食感もモチモチで私の子供も大好きです。筆者のおススメは今年からのメニューに加わった豆乳チョコクリーム!実は暑い日には出していないとのこと。涼しい日には店頭で並んでいるかもしれません。

洞爺に寄られた際は、皆が笑顔になれる優しい気持ちがかもったドーナツが待つ素敵なお店に立ち寄りたてはいかがでしょうか。洞爺湖の気持ちのいい風と共にとともに、きっと忘れられない思い出になること間違いありません!



店内の様子



豆乳チョコクリーム

『チャシバク ドーナツ』

web : www.chashibaku.com

住所 洞爺湖町洞爺町 109 番地 1
定休日 火曜日、水曜日、木曜日

営業時間 10:00~16:00(冬季短縮営業あり)
※「チャシバク INN」詳しくは上記 HP でご確認ください!!

洞爺温泉病院 「夏祭り」開催のお知らせ!



毎年恒例の「洞爺温泉病院夏祭り」を
今年は8月21日(水)14:00より開催予定です。
射的やヨーヨー釣り、かき氷やわたあめ等の
楽しい催し物が沢山ありますので、
ぜひ皆さんでお越しください。



洞爺温泉病院の理念

- 個別性を尊重した医療の提供
- 信頼されるチーム医療の実践

編集後記

洞爺の財田地区には立派な水田が広がっています。今はぐんぐん苗が育っているところです。そんな田んぼを見ると半世紀以上前、大人に交じって田植えをした記憶が思い出されます。自分の列だけ微妙に曲がっているのですぐわかと笑われました。今年もよいお米が採れますように。(H.N)

企画・編集

医療法人社団洞仁会洞爺温泉病院 広報図書委員会

〒049-5892

虻田郡洞爺湖町洞爺町54-41

TEL 0142-87-2311

FAX 0142-87-2260

ホームページ

<http://www.toya-onsen-hospital.or.jp>

